

情報掛)がサービスを開始しています。なお、現在のところ両者とも校費による利用に限定されています。利用登録の案内は、附属図書館(参考調査掛)のほか、部局図書室及び大型計算機センター共同利用掛で行っています。

NACSIS 目録システム講習会開催される

近畿北部地区ネットワーク加盟の7大学附属図書館の中で、現在、富士通のシステムを使用してNCと接続済みか、近く接続が内定している4大学からの10名を対象として行われた。FACOM-9450Σ10台を、附属図書館地域共同利用室に仮設し、9月3日に学術情報センター宮澤教授及び村橋事務官による総説の講義が行われたあと、9月8日から11日迄の4日間本学の学術情報センターデータベース研修終了者4名を講師にして、実務指導が行われた。

「遡及入力調査研究室」発足

——科学研究費補助金による試験研究——

現在、学術情報センターを中心として、学術情報システムの整備が急ピッチで進められています。中でも、目録所在情報サービスには、できるだけ多くの情報をとり込む必要があるが、現状では、新たに受入れた資料の入力に追われ、今日までに蓄積された貴重な文献の所蔵情報は、各大学で維持している目録カードによらざるを得ません。これらの所蔵情報を経済的かつ能率的な方法で機械可読形に変換し、共同利用に供することが、このネットワークシステムを完成させるうえで最も解決が急がれている課題の一つです。

国立七大学と学術情報センターでは、各大学の大型計算機センターと協力し、昨年からの遡及変換のための調査研究を行うべく科学研究費補助金の申請を行っていましたが、この度昭和62年度から3年計画で、これが認められました。各大学が分担している本年度の研究事項は以下のとおりです。

- 1) OCRによるデータ変換の研究並びにその変換方法との実際比較。
- 2) 学術情報センター目録システムに整合する、

CD-ROM による分散入力方式の実用化研究。

- 3) 入力フォーマットの比較研究と遡及標準フォーマットの設定。

- 4) サンプルデータベースの比較分析。

このため附属図書館では、9月1日より、整理課内に「遡及入力調査研究室」を設けて、整理課図書館専門員及び職員等をあて、館長直轄の組織とし、大型計算機センター金澤助教授の助言を受けながら、第一歩を踏み出すことになりました。

「京都大学90年展(仮称)」を開催予定

——創設時と明治期の姿を紹介——

京都大学は、去る6月18日で創立90周年を迎えました。

附属図書館では、毎年、一定のテーマを設定して学外者にも公開した展示会を開催しております。

今年の展示会は、さらに100周年に向けての第一年次となる記念すべき年にあたり、京大90年の歴史の中で特に創立前後の動き、勅令とその関係文書の写真による展示、及び明治期の四分科大学など、“明治期の京都大学”をテーマに紹介していく予定です。

この展示会を通じて、本学に関する未発見資料の収集の契機にもなればと期待しております。

開催期間：11月上旬

場 所：附属図書館展示ホール(3階)

総合目録室の利用について

附属図書館では昭和62年9月11日より、1階総合目録室の利用時間を下記のように変更いたしますのでお知らせします。

開館日の月曜日～金曜日：9時～19時

土曜日：9時～15時

工学部図書掛の事務室が1階に移転

新館開館当時から、附属図書館4階北側に位置していた工学部図書掛事務室が、工学部その他の利用者の要望を受けて、8月5日より1階の旧貴重書閲覧室に移転しました。これと同時に、同事務室の複写機も、1階メインカウンター前と地階B下エレベーターホールに1台ずつを移設。これによって一段と利用者の便がはかれることになりました。